

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F113310103652	設置等組織名	情報マネジメント学部（情報マネジメント学科）
大学名	東京通信大学	設置区分	私立	事業計画名	東京通信大学 既存学科の収容定員の増加
学校種	大学	都道府県	東京都		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1				
フェーズ2 前編し				
認可申請 又は届出	【令和5(2023)年3月】 情報マネジメント学部情報マネジメント学科 収容定員の増加 認可申請予定	【令和5(2023)年3月】 情報マネジメント学部情報マネジメント学科 収容定員の増加 認可申請		
フェーズ1 後編し				
フェーズ2	【令和5(2023)年4月～令和6(2024)年3月】 2-①システム増強等の契約締結と体制構築 2-②令和8(2026)年度を見据えた地方自治体や外部企業、海外の大学との連携内容や研修プログラム等の検討 2-③令和8(2026)年度の新設コースに向けたカリキュラムと人員配置の検討	【令和5(2023)年4月～令和6(2024)年3月】 2-①システム増強等の契約締結と体制構築 2-②令和8(2026)年度を見据えた地方自治体や外部企業、海外の大学との連携内容や研修プログラム等の検討 2-③令和8(2026)年度の新設コースに向けたカリキュラムと人員配置の検討	R5年度自己 評価	【3】計画を十分に実施している。
開設 又は定員増	【令和6(2024)年4月】 情報マネジメント学部情報マネジメント学科 定員増予定（入学定員：変更前400人→変更後850人、編入学定員：変更前200人→変更後300人、収容定員：変更前2,000人→変更後4,000人、学位分野：工学）	【令和6(2024)年4月】 情報マネジメント学部情報マネジメント学科 定員増（入学定員：変更前400人→変更後850人、編入学定員：変更前200人→変更後300人、収容定員：変更前2,000人→変更後4,000人、学位分野：工学）		
フェーズ2 後編し	【令和6(2024)年4月～令和7(2025)年3月】 2-①【定員増への対応】システムの導入（システム増強機器、システム維持・整備、チャットボット導入） 2-②【企業との連携授業】システムの導入（学生向けLMS開発環境設備） 【令和7(2025)年4月～令和8(2026)年3月】 2-③【定員増への対応】システムの導入（システム維持・整備、ネットワーク増強機器、ネットワーク増強構築） 2-④【受入強化・外国語対応等】アプリ開発費用（社会人受入強化、学習継続率向上、外国語対応） 【令和8(2026)年4月～令和9(2027)年3月】 2-⑤システムの導入（システム維持・整備） 【令和9(2027)年4月～令和10(2028)年3月】 2-⑥システムの導入（システム維持・整備）	【令和6(2024)年4月～令和7(2025)年3月】 2-①【定員増への対応】システムの導入（システム増強機器、システム増強構築、システム維持・整備、チャットボット導入） 2-②【企業との連携授業】システムの導入（学生向けLMS開発環境設備） 【令和7(2025)年4月～令和8(2026)年3月】 2-③【定員増への対応】システムの導入（システム維持・整備、ネットワーク増強機器、ネットワーク増強構築） 2-④【受入強化・外国語対応等】アプリ開発費用（社会人受入強化、学習継続率向上、外国語対応） 【令和8(2026)年4月～令和9(2027)年3月】 2-⑤システムの導入（システム維持・整備） 【令和9(2027)年4月～令和10(2028)年3月】 2-⑥システムの導入（システム維持・整備）	R6年度自己 評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ3	【令和6(2024)年4月～令和7(2025)年3月】 3-①【連携授業・研修プログラム対応】地方自治体や外部企業、海外の大学との連携に関するプログラム等の検討・準備 3-②外部委託研究獲得に向けた研究の応募・獲得 【令和7(2025)年4月～令和8(2026)年3月】 3-③【連携授業・研修プログラム対応】地方自治体や外部企業、海外の大学との連携に関するプログラム等の協定締結 3-④地方自治体や外部企業、海外の大学との連携科目の一部実施 3-⑤令和8(2026)年度の新設コースに向けた採用、授業準備の実施 3-⑥外部委託研究獲得に向けた研究の応募・獲得・実施 【令和8(2026)年4月～令和9(2027)年3月】 3-⑦新設コースに係る協定締結、連携科目、授業準備等の実施 3-⑧外部委託研究獲得に向けた研究の応募・獲得・実施 【令和9(2027)年4月～令和10(2028)年3月】 3-⑧新設コースに係る協定締結、連携科目、授業準備等の実施 3-⑨外部委託研究獲得に向けた研究の応募・獲得・実施	【令和6(2024)年4月～令和7(2025)年3月】 3-①【連携授業・研修プログラム対応】地方自治体や外部企業、海外の大学との連携に関するプログラム等の検討・準備 3-②外部委託研究獲得に向けた研究の応募・獲得 【令和7(2025)年4月～令和8(2026)年3月】 3-③【連携授業・研修プログラム対応】地方自治体や外部企業、海外の大学との連携に関するプログラム等の協定締結 3-④地方自治体や外部企業、海外の大学との連携科目の一部実施 3-⑤令和8(2026)年度の新設コースに向けた採用、授業準備の実施 3-⑥外部委託研究獲得に向けた研究の応募・獲得・実施 【令和8(2026)年4月～令和9(2027)年3月】 3-⑦新設コースに係る協定締結、連携科目、授業準備等の実施 3-⑧外部委託研究獲得に向けた研究の応募・獲得・実施 【令和9(2027)年4月～令和10(2028)年3月】 3-⑧新設コースに係る協定締結、連携科目、授業準備等の実施 3-⑨外部委託研究獲得に向けた研究の応募・獲得・実施	R6年度自己 評価	【3】計画を十分に実施している。
			R7年度自己 評価	リストから選択してください。
			R8年度自己 評価	リストから選択してください。
定員減又は 学部等の廃 止				

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東京通信大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和5年度の 取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	東京通信大学
-------------	-------	-----	--------

②

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

☒ チェック

③

選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

☒ チェック

④

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

☒ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報マネジメントの実践力を強化する取組として、NTT東日本やEdTech企業等と連携し、本学独自のLMS等を題材に、要件定義～検証の一連のシステム開発工程を学生自ら実施し、教員と外部企業の評価・フィードバックを行うオンライン少人数制のゼミ科目を新設する予定である。また、国内外の地域を取り巻く環境を把握し、課題の発見や解決する力を養うために、国内の地方自治体と連携しその地方の抱える課題（都市部一極集中による若者減、伝統文化の振興と観光形成による交流人口の増加等）をテーマとしたPBL型の授業科目を取り組む計画である。さらに、海外大学との連携の取組として、デルフト工科大学のデザインアプローチのMOOCを取り入れた英語による専門科目を予定しており、令和8年度以降は文化の多様性とデザインをテーマに、PBL型授業において、本学の学生とデルフト工科大学の学生が交流を行える枠組みを構築する予定である。 令和6、7年度までに上記の企業や自治体、海外大学との連携を強化し、令和8年度から、海外大学の研修プログラムを取り入れた新設コースを設置する計画である。	＊オンライン少人数制のゼミ科目の状況（学生向けLMS開発環境） 科目の担当教員とLMS開発業者と複数回打合せを実施しており、担当教員が求める要件を業者と精査している状況。また、学生のアウトプットに対する評価・フィードバックを行う外部企業と調整している段階。 ＊PBL型の授業 地方自治体と「学び」を軸に連携方法を検討している段階。今後内容を具体化する計画である。 ＊海外大学等との連携 ・令和6年度からデルフト工科大学のデザインアプローチのMOOCを取り入れた授業を開講予定。 ・トビタテ！留学JAPANの説明会に参加し、事務局や大使館との関係づくりをスタートさせた。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☐ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☒ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学の建学の理念は「多面的に高度な教育機会を社会に広く開かれた形で提供すること」であり、本学の教育目的において重視する「社会的課題の発見と解決」ができる教育を時間的・空間的制約を越えた学びの環境・機会を提供することである。「地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）」においては、地域の初等中等教育段階の学校との連携においても、オンラインでプログラミング授業等を提供する計画である。「社会人学生の受入れ強化に向けた取組」について、本学は平成30年度の開設年度から社会人の受入れを視野に入れた教育方法（講義動画15分単位で構成する等）や体制を構築しているため、令和4年度においても本学の在籍者数の内、社会人が半数以上で構成されている。更に令和4年度から社会人のリスキリングを目的に、「DX人材育成」や「AIデータサイエンス」「マーケティング」等の分野の履修証明プログラムを開設しており、社会人学生の受入れをより一層強化している。今後も社会人学生の受入れ強化に向けた取組を強化していく。	＊地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等） ・地方自治体と「学び」を軸に連携方法を検討している段階。 ＊社会人学生の受入れ強化に向けた取組 ・R5年度にデジタル時代の「読み・書き・そろばん」である、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI」のガラスレベルと応用基礎レベルを取組し、社会人にとって、働きながら、オンラインで体系的に学べる仕組みを導入している。 ・今後、社会人にとって必要なスキルとなる、デジタルリテラシー協議会のDX推進パスポート等の資格と対応した科目群を検討する計画である。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	東京通信大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	東京通信大学
-------------	-------	-----	--------

⑬

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック

⑭

選定された大学は、公費要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■ チェック

⑮

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック
- c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報マネジメントの実践力を強化する取組として、NTT東日本やEdTech企業等と連携し、本学独自のLMS等を題材に、要件定義～検証の一連のシステム開発工程を学生自ら実施し、教員と外部企業の評価・フィードバックを行うオンライン少人数制のゼミ科目を新設する予定である。また、国内外の地域を取り巻く環境を把握し、課題の発見や解決する力を養うために、国内の地方自治体と連携しその地方の抱える課題（都市部一極集中による若者減、伝統文化の振興と観光形成による交流人口の増加等）をテーマとしたPBL型の授業科目を取り組む計画である。さらに、海外大学との連携の取組として、デルフト工科大学のデザインアプローチのMOOCを取り入れた英語による専門科目を予定しており、令和8年度以降は文化の多様性とデザインをテーマに、PBL型授業において、本学の学生とデルフト工科大学の学生が交流を行える枠組みを構築する予定である。 令和6、7年度までに上記の企業や自治体、海外大学との連携を強化し、令和8年度から、海外大学の研修プログラムを取り入れた新設コースを設置する計画である。	・オンライン少人数制のゼミ科目の状況（学生向けLMS開発環境） 科目の担当教員とLMS開発業者と複数回打合せを継続し、学生向けLMSの開発が完了した。現在、ゼミ履修生を募集している状況である。 ・PBL型の授業 現在、地方自治体の滝沢市と「学び」を軸に連携方法の検討を継続中。今後内容を具体化する計画である。 ・海外大学等との連携 ・デルフト工科大学のデザインアプローチのMOOCを取り入れた授業を開講した。 ・デルフト工科大学、ライデン大学を訪問し学生間交流に向けた打合せを実施しており、今年度はオンラインによる学生間交流を実施する予定である。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☐ チェック
- a.入学者選抜における科目の見直し
- ☐ チェック
- b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック
- d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- ☐ チェック
- e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学の建学の理念は「多面的に高度な教育機会を社会に広く開かれた形で提供すること」であり、本学の教育目的において重視する「社会的課題の発見と解決」ができる教育を時間的・空間的制約を越えた学びの環境・機会を提供することである。「地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）」においては、地域の初等中等教育段階の学校においても、オンラインでプログラミング授業等を提供する計画である。「社会人学生の受入れ強化に向けた取組」について、本学は平成30年度の開設年度から社会人の受入を視野にいれた教育方法（講義動画15分単位で構成する等）や体制を構築しているため、令和4年度においても本学の在籍者数約1万人、社会人が7割以上で構成されている。更に令和4年度から社会人のリスキリングを目的に、「DX人材育成」「AIデータサイエンス」「マーケティング」等の分野の修習証明プログラムを開発しており、社会人学生の受入をより一層強化している。今後も社会人学生の受入れ強化に向けた取組を強化していく。	・地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等） ・地方自治体と「学び」を軸に連携方法を検討している段階である。 ・社会人学生の受入れ強化に向けた取組 ・R5年度にデジタル時代の「読み・書き・そろばん」である、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI」のデジタルレベルと応用基礎レベルを取得し、社会人にとって、働きながら、オンラインで体系的に学べる仕組みを導入済みであり、学生への周知を強化している。 ・前年度同様、今後、社会人にとって必要なスキルとなりうる、デジタルリテラシー協議会のDX推進バースト等の資格に対応した科目群を検討している段階である。 ・企業内の人材育成支援の観点で地方企業と接点を持ち、R7年度に複数名が入学することになった。今後も継続的に企業向けにアプローチを行い、大学として教育を充実させていく計画である。	

大学名	東京通信大学
-----	--------

(2)

改組内容	
学部学科名	

[illegible]

大学名	東京通信大学
-----	--------

(5)

改組内容	
学部学科名	

[illegible]

大学名	東京通信大学
-----	--------

大学名	東京通信大学
-----	--------

(7)

改組内容	
学部学科名	

[illegible]

大学名	東京通信大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	800	1250	1250																
		入学者数	人	979	1312	1081																
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	0	103																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	800	1,250	1,250																
		入学者数(B)	人	979	1,415	1,081																
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.22	1.13	0.86																
	収容定員等	収容定員(C)	人	4000	4550	5100																
		編入学定員	人	800	900	1000																
		在籍者数(D)	人	5411	5853	6153																
		編入学者数	人	449	482	513																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.35	1.29	1.21																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定	増員												
項目		単位																			
外部資金獲得額		千円	7,575	8,904	7,622	33,893	16,000	14,480	16,669												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間ににおける各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	10,842
本事業による助成金の額(F)	千円	561,898
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	24,890

特記事項

--